

授業科目名： 発達と学習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：懸田 孝一 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解できる。 1-2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解できる。 2. 幼児、児童及び生徒の学習の過程について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解できる。 2-2. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて理解できる。 2-3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。 3. 身につけた知識を教育的課題と関連づけて考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達については、主に人間の認知機能（記憶、言語、思考など）の発達や集団における人間関係の形成や行動など社会性の発達の過程及び特徴を理解する。 2. 学習については、主に学習のメカニズムや学習を支える動機づけの理論などの学習に関する基礎的な知識を身につける。そして、認知発達を踏まえた学習指導についての基礎的な考え方を理解する。 3. 上記1、2についての知識をもとにして教育的課題と関連づけて考える。 <p>この授業では、上記の内容を主に講義を通して学ぶことになるが、時折、心理実験に参加し心理現象の実体験を通じた理解も試みる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 「発達と学習」と教育心理学：教育心理学について学ぶ意味</p> <p>第3週 記憶の機能と発達（1）：記憶の分類</p>			

第4週	記憶の機能と発達（2）：何が記憶を左右するのか
第5週	記憶の機能と発達（3）：振り返り（記憶の特性を踏まえた教育的配慮） 【宿題：記憶に関するテーマについてレポートを提出する。】
第6週	学習と動機づけ（1）：学習のメカニズム
第7週	学習と動機づけ（2）：やる気を心理学的に捉える
第8週	学習と動機づけ（3）：やる気を持続させるためには何が重要か
第9週	学習と動機づけ（4）：振り返り（自律的な学習を促す） 【宿題：学習と動機づけに関するテーマについてレポートを提出する。】
第10週	思考の機能と発達（1）：思考を思考するメタ認知という心の働き
第11週	思考の機能と発達（2）：思考を支える知的能力の発達 【宿題：思考に関するテーマについてレポートを提出する。】
第12週	社会性の機能と発達（1）：社会性の芽生え
第13週	社会性の機能と発達（2）：社会性の基盤と道德性の発達
第14週	社会性の機能と発達（3）：青年期の発達
第15週	言語の機能と発達（1）：読解力の発達と教育 【宿題：社会性、言語に関するテーマについてレポートを提出する。】
テキスト	
藤田哲也（2021）. 絶対役立つ教育心理学 第2版 ー実践の理論、理論を实践. ミネルヴァ書房.	
参考書・参考資料等	
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2015）. やさしい教育心理学 第4版. 有斐閣.	
この他にオリエンテーション時に参考文献リストを配付する。また、必要に応じて授業時に適宜紹介する。	
学生に対する評価	
講義終了時に毎回提出する「課題シート」（30%、到達目標1と2に対応）、「宿題として提出するレポート（小レポート）」（30%、到達目標1、2、3に対応）、「最終レポート」（40%、到達目標1、2、3に対応）で評価する。これらを総合して100点満点とし、60点以上を合格とする。	
宿題として提出するレポート（小レポート）及び最終レポートともに講義で学んだ基礎知識を適切に説明しつつ、その知識を踏まえて教育的課題を考察することを求める。	
欠席した場合の取り扱い	
5回以上の欠席は学修成果を得る事が困難であるため不合格とする。ただし、やむを得ない理由により欠席した場合は欠席回数に数えないこととする。	

授業科目名：教育心理学基礎実験 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久能弘道・懸田 孝一・宮崎拓弥 担当形態：オムニバス
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の認知機能や社会的行動の性質を探るために行われるいくつかの心理実験の内容及び実施方法を理解し、習得する。 2. 実験結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができる。 3. 個人の能力・性格・発達の状態などの諸情報を得るためのいくつかの心理検査の内容及び実施方法を理解し、習得する。 4. 検査結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができる。 			
授業の概要			
<p>心理的な事象を科学的に検討するためには、幼児、児童、生徒あるいは成人のいずれが対象であっても、当該事象を測定する必要がある。これまでに心理学では、そのための様々な手段や方法を開発し研究がなされてきた。この授業では、人間の認知機能や社会的行動の性質を探るために行われる心理実験と個人の能力・性格・発達の状態などの諸情報を得るための心理アセスメントの1つである心理検査の中から、それぞれ代表的なものを取りあげて実際に体験する。そして、その結果を分析し、実験レポートや検査レポートとしてまとめる。こうした内容の演習を通して、心理的な事象を科学的に検討するために必要な基礎的技能や知識を習得する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当者：久能・懸田・宮崎）			
第2回：知覚運動学習（鏡映描写）（実験の実施）（担当者：懸田）			
第3回：知覚運動学習（鏡映描写）（データのまとめ方と解説）（担当者：懸田）			
【宿題 知覚運動学習についてレポートを提出する。】			
第4回：文章理解における文脈効果（実験の実施）（担当者：懸田）			
第5回：文章理解における文脈効果（データのまとめ方と解説）（担当者：懸田）			
【宿題 文章理解における文脈効果についてレポートを提出する。】			
第6回：実験レポートの書き方（提出されたレポートを返却して解説する）（担当者：懸田）			
第7回：MMPI性格検査（検査の実施）（担当者：宮崎）			
第8回：MMPI性格検査（結果のまとめ方と解説）（担当者：宮崎）			
【宿題 MMPI性格検査の検査結果についてレポートを提出する。】			
第9回：PFスタディ（検査の実施と結果の整理）（担当者：宮崎）			

第10回：PFスタディ（結果のまとめ方と解説）（担当者：宮崎）

【宿題 PFスタディの検査結果についてレポートを提出する。】

第11回：検査レポートの書き方（提出されたレポートを返却して解説する）（担当者：宮崎）

第12回：CLAS（検査の実施と結果の整理）（担当者：久能）

第13回：CLAS（結果のまとめ方と解説）（担当者：久能）

【宿題 CLASの検査結果についてレポートを提出する。】

第14回：TEG（検査の実施と結果の整理）（担当者：久能）

第15回：TEG（結果のまとめ方と解説）（担当者：久能）

【宿題 TEGの検査結果についてレポートを提出する。】第9回：PFスタディ（検査と結果の整理）

テキスト

特にテキストは使用しないが、講義資料を配付し、利用する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

心理実験課題について

心理実験の内容及び実施方法について理解しているか（50%）。

実験結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができるか（50%）。

心理検査課題について

心理検査の内容及び実施方法について理解しているか（50%）。

検査結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができるか（50%）。

評価基準は59点以下をF、60～69点をD、70～79点をC、80～89点をB、90点以上をAとする。

それぞれの検査についてのレポートの提出を次週まで課し、その内容を到達目標に対する到達度に応じて評価する。なお、各レポートでF評価が1つでもあった場合、総合評価はFとなるので注意すること。

欠席した場合の取り扱い

実習を伴う授業のため、全回出席を単位認定の条件とする。ただし、やむを得ない事情での欠席の場合にはその都度課題などを与えて対応するので、事後であっても必ず申し出ること。

授業科目名：教育心理学基礎実験Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久能弘道・懸田孝一・宮崎拓弥 担当形態：オムニバス
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の認知機能や社会的行動の性質を探索するために行われるいくつかの心理実験の内容及び実施方法を理解し、習得する。 2. 実験結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができる。 3. 個人の能力・性格・発達の状態などの諸情報を得るためのいくつかの心理検査の内容及び実施方法を理解し、習得する。 4. 検査結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができる。 			
授業の概要			
<p>心理的な事象を科学的に検討するためには、幼児、児童、生徒あるいは成人のいずれが対象であっても、当該事象を測定する必要がある。これまでに心理学では、そのための様々な手段や方法を開発し研究がなされてきた。この授業では、人間の認知機能や社会的行動の性質を探索するために行われる心理実験と個人の能力・性格・発達の状態などの諸情報を得るための心理アセスメントの1つである心理検査の中から、それぞれ代表的なものを取りあげて実際に体験する。そして、その結果を分析し、実験レポートや検査レポートとしてまとめる。こうした内容の演習を通して、心理的な事象を科学的に検討するために必要な基礎的技能や知識を習得する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当者：久能・懸田・宮崎）			
第2回：錯視実験（実験の実施）（担当者：宮崎）			
第3回：錯視実験（データの分析方法と解説）（担当者：宮崎）			
【宿題 錯視実験についてレポートを提出する。】			
第4回：ストループ効果（実験の実施）（担当者：懸田）			
第5回：ストループ効果（データの分析方法と解説）（担当者：懸田）			
【宿題 ストループ効果についてレポートを提出する。】			
第6回：感覚記憶（感覚記憶の存在を検証する実験の実施）（担当者：懸田）			
第7回：感覚記憶（感覚記憶の保持時間を検証する実験の実施）（担当者：懸田）			
第8回：感覚記憶（データの分析方法と解説）（担当者：懸田）			
【宿題 感覚記憶についてレポートを提出する。】			
第9回：心的回転（実験の実施）（担当者：宮崎）			

第10回：心的回転（データの分析方法と解説）（担当者：宮崎）

【宿題 心的回転についてレポートを提出する。】

第11回：YG性格検査（検査の実施と結果のまとめ方）（担当者：久能）

第12回：YG性格検査（検査結果の解説）（担当者：久能）

【宿題 YG性格検査の検査結果についてレポートを提出する。】

第13回：田中ビネー知能検査（検査方法の説明）（担当者：久能）

第14回：田中ビネー知能検査（検査の実施）（担当者：久能）

第15回：田中ビネー知能検査（結果のまとめ方と解説）（担当者：久能）

【宿題 田中ビネー知能検査の検査結果についてレポートを提出する。】第9回：心的回転（実験）

テキスト

特にテキストは使用しないが、講義資料を配付し、利用する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

心理実験課題について

心理実験の内容及び実施方法について理解しているか（50%）。

実験結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができるか（50%）。

心理検査課題について

心理検査の内容及び実施方法について理解しているか（50%）。

検査結果を分析し、その内容を適切にレポートにまとめることができるか（50%）。

評価基準は59点以下をF、60～69点をD、70～79点をC、80～89点をB、90点以上をAとする。

それぞれの検査についてのレポートの提出を次週まで課し、その内容を到達目標に対する到達度に応じて評価する。なお、各レポートでF評価が1つでもあった場合、総合評価はFとなるので注意すること。

欠席した場合の取り扱い

実習を伴う授業のため、全回出席を単位認定の条件とする。ただし、やむを得ない事情での欠席の場合にはその都度課題などを与えて対応するので、事後であっても必ず申し出ること。

授業科目名： 学習心理学特講 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎 拓弥
			担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の基本的事項について理解することができる。 2 ヒトを含めた動物にとっての学習過程について理解することができる。 3 学習に関する心理学的な事項について関心を持つことができる。 			
授業の概要			
<p>学習という言葉からは「学校での勉強」のように知識の獲得といったことをすぐに思い浮かべるかもしれない。そうした事柄もちろん学習の一部ではあるが、心理学において学習は、経験に基づく比較的永続的な変化としてより広く捕らえられており、人間の基盤を支える最も重要な現象であると考えられている。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を踏まえ、ヒトを含めた動物にとっての学習過程について発達の特徴と関連づけて解説する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：行動と認知の学習			
第3回：古典的条件づけ1 基本原理について			
第4回：古典的条件づけ2 その応用について			
第5回：オペラント条件づけ1 基本原理について			
第6回：オペラント条件づけ2 その応用について			
第7回：学習の理論			
第8回：技能学習			
第9回：社会的学習			
第10回：問題解決			
第11回：推論			
第12回：概念過程			
第13回：言語獲得			
第14回：記憶と忘却			
第15回：有意味材料の記憶と表象			
定期試験			
テキスト			

グラフィック学習心理学 行動と認知 山内光哉・春木豊編 サイエンス社

参考書・参考資料等

講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業時に課される小レポート（20%），試験（80%）

授業科目名： 学習心理学特講Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎 拓弥 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 学習の基本的事項について理解することができる。 2 人間の学習過程について理解することができる。 3 学習に関する心理学的な事柄について関心を持つことができる。 			
授業の概要			
<p>学習という言葉からは「学校での勉強」のように知識の獲得といったことをすぐに思い浮かべるかもしれない。そうした事柄ももちろん学習の一部ではあるが、心理学において学習は、経験に基づく比較的永続的な変化としてより広くとらえられており、人間の基盤を支える最も重要な現象であると考えられている。本授業では、広く学習に関わる心理学的な知見についての基本的事項を解説する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：学習のメカニズム1 条件づけについて			
第3回：学習のメカニズム2 社会的学習について			
第4回：動機づけの基礎1 欲求について			
第5回：動機づけの基礎2 社会的動機づけについて			
第6回：動機づけの応用1 一般的な動機づけの応用について			
第7回：動機づけの応用2 教育に関わる動機づけの応用について			
第8回：記憶の基礎1 短期記憶について			
第9回：記憶の基礎2 長期記憶について			
第10回：記憶の応用1 一般的な場面での応用について			
第11回：記憶の応用2 教育場面での応用について			
第12回：認知スタイルの基礎			
第13回：認知スタイルの応用			
第14回：メタ認知と学習観の基礎			
第15回：メタ認知と学習観の応用			
定期試験			
テキスト			
絶対役立つ教育心理学 実践の理論，理論を实践 藤田哲也編著 ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等

講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業時に課される小レポート（20%）、試験（80%）

授業科目名： 教育心理学特講 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 懸田 孝一 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間がいつどのような知識を獲得しているのか、知識獲得の特徴やメカニズムを理解できる。 2. 上記1で身につけた知識をもとに、学校の学習における知識獲得の特徴とその問題、さらに、有効な知識獲得のために必要な条件など、知識獲得に関わる教育的課題について考えてまとめることができる 			
<p>授業の概要</p> <p>人間は生まれた直後から自分の周囲の環境にある様々な対象に常に興味を持ち、多様な情報を取り込み、それを膨大な知識としながら成長している。また、学校で行われる学習によっても子どもは様々な知識を獲得する。このように、人間は生活の様々な場面で学習を繰り返すことによって多様で膨大な知識を獲得し発達すると言える。</p> <p>この授業では、人間がいつどのような知識を獲得しているのか、知識獲得の特徴やメカニズムを理解することを目標とする。また、学校の学習における知識獲得の特徴とその問題、さらに、有効な知識獲得のために必要な条件など、知識獲得に関わる教育的課題について考える。</p> <p>なお、講義の他に、受講者が分担して教科書の内容をまとめ、発表し、受講者でディスカッションする形式も取り入れたいと考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：知識を獲得することとは何か</p> <p>第3回：知識の獲得の始まり</p> <p>【宿題 知識獲得についてレポートを提出する。】</p> <p>第4回：言葉の獲得（1） 話し言葉からの単語の切り出し</p> <p>第5回：言葉の獲得（2） 単語の意味の推論</p> <p>【宿題 言語獲得についてレポートを提出する。】</p> <p>第6回：概念の獲得（1） 概念学習と言葉の学習</p> <p>第7回：概念の獲得（2） 知識の構築と機能</p> <p>【宿題 概念獲得についてレポートを提出する。】</p> <p>第8回：社会的文脈の中での知識獲得（1） 「使えない」知識と「生きた」知識</p>			

第9回：社会的文脈の中での知識獲得（2） 協同による知識獲得

【宿題 社会的文脈における知識獲得についてレポートを提出する。】

第10回：外国語の獲得（1） 母語の獲得との違い

第11回：外国語の獲得（2） 外国語学習はどのようにあるべきか

【宿題 外国語の獲得についてレポートを提出する。】

第12回：熟達者の知識（1） 初心者と熟達者の違い

第13回：熟達者の知識（2） 熟達者になるためには何が必要か

【宿題 熟達者の知識についてレポートを提出する。】

第14回：21世紀に必要な知識の獲得（1） 21世紀に必要な知識とは

第15回：21世紀に必要な知識の獲得（2） 21世紀に必要な知識獲得のための教育

【宿題 21世紀に必要な知識獲得についてレポートを提出する。】

テキスト

今井むつみ・野島久雄・岡田浩之（2012）. 新・人が学ぶということ：認知学習論からの視点.
北樹出版.

参考書・参考資料等

必要に応じて、適宜紹介する。

学生に対する評価

「宿題として提出するレポート」（70%、到達目標1、2に対応）及び「最終レポート」（30%、到達目標1、2に対応）で評価する。これらを総合して100点満点とし、60点以上を合格とする。

宿題として提出するレポート及び最終レポートともに講義で学んだ基礎知識を適切に説明しつつ、その知識を踏まえて教育的課題やその対応について考察することを求める。

欠席した場合の取り扱い

5回以上の欠席は学修成果を得る事が困難であるため不合格とする。ただし、やむを得ない理由により欠席した場合は欠席回数に数えないこととする。

授業科目名： 教育心理学特講Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 懸田孝一 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読みの基本的なメカニズムについて理解できる。 2. 読みの発達の特徴と問題について理解できる。 3. 読みを支援する方法について理解できる。 4. 教育の中にみられる読みに関わる問題や課題について理解し、考えをまとめることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>読むことは人間の重要な認知能力の1つであり、発達過程の中でも重要な位置を占めてくる。また、学校教育上も非常に重要な能力であると同時に様々な問題も含んでいる。</p> <p>この授業では、読み（reading）に関する教育心理学的知見や認知心理学的知見を中心に、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読みのメカニズムについて理解する 2. 読みの発達について理解する 3. 教育における読みの役割について理解する <p>ことを目標とする。こうした内容を理解した上で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 教育の中の読みに関わる問題を心理学的な視点で考える <p>ことを目指す。</p> <p>この授業では、講義の他に、受講者が分担してテキストの内容をまとめ、発表し、受講者でディスカッションする形式も取り入れたいと考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>I. 読みの過程の基礎</p> <p>第2回：単語の読みの過程（1） 単語の読みに関する心理現象</p> <p>第3回：単語の読みの過程（2） 単語の読みのメカニズム</p> <p>【宿題 単語の読みの過程についてレポートを提出する。】</p> <p>第4回：文の理解過程</p> <p>第5回：文章の理解過程（1） 文章理解における読解方略</p> <p>第6回：文章の理解過程（2） 文章理解における情動と動機</p> <p>【宿題 文や文章の読みの過程についてレポートを提出する。】</p> <p>II. 読みの発達</p>			

第7回：幼児期における読みの発達

第8回：児童生徒の読み

第9回：読みの生涯発達

【宿題 読みの発達についてレポートを提出する。】

III. 教育と読み

第10回：読解過程に伴う情動と読むことへの動機

【宿題 読みの動機づけについてレポートを提出する。】

第11回：科学的文章の読みと理解

第12回：文学作品の読みと理解

【宿題 様々な種類の文章の読みについてレポートを提出する。】

第13回：読みの能力とメタ認知

第14回：読みと要約

【宿題 読みと関連する能力についてレポートを提出する。】

IV. まとめ

第15回：読みの問題や課題についてのディスカッション

テキスト

大村彰道・秋田喜代美・久野雅樹（2001）. 文章理解の心理学：認知，発達，教育の広がりの中で. 北大路書房.

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

「宿題として提出するレポート」（70%、到達目標1、2、3、4に対応）及び「最終レポート」（30%、到達目標1、2、3、4に対応）で評価する。これらを総合して100点満点とし、60点以上を合格とする。

宿題として提出するレポート及び最終レポートともに講義で学んだ基礎知識を適切に説明しつつ、その知識を踏まえて教育的課題やその対応について考察することを求める。また、最終レポートについては、授業時に行うディスカッションの内容も踏まえながらまとめることとする。

欠席した場合の取り扱い

5回以上の欠席は学修成果を得る事が困難であるため不合格とする。ただし、やむを得ない理由により欠席した場合は欠席回数に数えないこととする。

授業科目名： 学習心理学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎 拓弥
			担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程における、動機づけの基本的事項について理解することができる。</p> <p>2 動機づけに関するさまざまな理論について理解することができる。</p> <p>3 主体的学習と動機づけの関連について理解することができる。</p> <p>4 動機づけに関わる事柄について感心を抱くことができる。</p>			
授業の概要			
<p>動機づけは一般的には「やる気」と呼ばれており、われわれの日常的な体験と密接に結びついている。複雑化・多様化した現在においては、常にアップデートされつづける情報に左右されることなく自らに必要な情報を調べて選択したうえで課題解決する、主体的な学びが求められるが、そこで重要な役割を果たしているのが動機づけである。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程における、動機づけの説明を試みたさまざまな理論とそれらと主体的な学習との関連について理解を深めることとする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：動機づけとは			
第3回：内発的動機づけ			
第4回：自己決定理論			
第5回：接近・回避動機づけ			
第6回：他者志向的動機			
第7回：自動動機			
第8回：フロー理論			
第9回：達成目標理論			
第10回：自己認知			
第11回：セルフ・エフィカシー			
第12回：自己制御学習			
第13回：学習性無力感			
第14回：パーソナルセオリー			

第15回：まとめ
テキスト モチベーションをまなぶ12の理論 ゼロからわかる「やる気の心理学」入門 鹿毛雅治編 金剛出版
参考書・参考資料等 講義内で適宜紹介する。
学生に対する評価 毎回の授業時に課される小レポート（20%），最終レポート（80%）

授業科目名： 学習心理学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎 拓弥
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 自己調整学習に関する最近の流れについて知ることができる。 2 自己調整学習の考えに基づいて教育実践を捉えることができる。 3 自己調整学習に関わる現象について関心を抱くことができる。 			
授業の概要			
<p>学習心理学は、1950年代に行動主義から認知主義へと大きくシフトし、より近年では自己調整学習の枠組みで学習を捉えようとする試みがなされてきている。自己調整学習とは、学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、自分自身の学習過程に能動的に関与している学習のことを指し、ここ数年来の教育現場の基本理念となっている「生きる力」とも関連が深い。本授業では、自己調整学習の理論に基づくと、教育実践がどのように捉え直すことができるのかについての理解を深めることとする。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：学力の分類と指導			
第3回：教育における目標			
第4回：教室文化と学習規律			
第5回：授業における教授方法			
第6回：授業における指導の技術			
第7回：学習意欲を促す指導			
第8回：仲間との協同による学習			
第9回：自律的な問題解決を促す指導			
第10回：ICTを用いた指導方法			
第11回：授業外の学習の指導			
第12回：教師の専門性を高める「子どものつまずき」に応じた指導			
第13回：障害のある児童生徒の理解と支援			
第14回：教育における評価と学習			
第15回：テストの作成と運用			
テキスト			
自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術 自己調整学習研究会監修 北大路書房			

参考書・参考資料等

講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業時に課される小レポート（20%）、最終レポート（80%）

授業科目名： 教育心理学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 懸田 孝一
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>心理学の学術論文の講読、内容の発表等を通して、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。 <p>加えて、幼児、児童及び生徒の心身の発達や幼児、児童及び生徒の学習に関わる教育課題に新たに対応するための基礎的な力の獲得を目指す。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 教育心理学関連の学術論文の内容を批判的に読むことができる。 3. 教育心理学関連の学術論文の内容を理解することができる。 4. 教育心理学関連の学術論文の内容をまとめることができる。 5. 教育心理学関連の学術論文の内容を分かりやすく発表することができる。 6. 教育心理学関連の学術論文の内容についてディスカッションすることができる。 <p>ことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習に関わって様々な教育課題が山積している現在、まず幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できることが重要である。加えて、それらの教育課題に新たに対応する力も必要である。そのためには、関連する先行研究を概観し、問題点を整理することから研究課題を見つけ、研究目的を設定できる力を身につけることが必要となる。そのための基礎的な力として、学術論文を批判的に読み、その内容を理解し、まとめ、伝える技能がある。</p> <p>この授業では、心理学領域の学術論文の講読と発表等を通して、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。加えて、学術論文を批判的に読み、その内容を理解し、まとめ、伝える技能の基礎の獲得を目指す。授業担当者が予め選定した心理学領域の学術論文の中から、受講者は一つを選び講読し、その内容を発表し、受講者</p>			

全員で知識を共有した上で内容についてディスカッションする。また、論文の内容を、常に疑問をもちながら批判的な態度で理解しようとする習慣を身につける。

授業計画

第1回：オリエンテーション

授業内容や進め方について説明する。また、発表の順番を決定しておく。

第2回：演習の見本の提示（1）

担当教員が演習の見本を提示する。学術論文の選定の仕方から論文を読む時のポイントを説明する。

第3回：演習の見本の提示（2）

前回に引き続き、担当教員が演習の見本を提示する。作成した資料を使いながら発表し、ディスカッションを行う。

第4回：外的及び内的要因の相互作用に関する論文の発表（担当者1）

担当者1がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第5回：代表的な発達理論に関する論文の発表（担当者2）

担当者2がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第6回：運動発達に関する論文の発表（担当者3）

担当者3がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第7回：言語発達に関する論文の発表（担当者4）

担当者4がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第8回：認知発達に関する論文の発表（担当者5）

担当者5がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第9回：社会性の発達に関する論文の発表（担当者6）

担当者6がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第10回：代表的な学習理論に関する論文の発表（担当者7）

担当者7がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第11回：動機づけに関する論文の発表（担当者8）

担当者8がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第12回：集団づくりに関する論文の発表（担当者9）

担当者9がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第13回：学習評価に関する論文の発表（担当者10）

担当者10がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第14回：主体的な学習活動を支える指導に関する論文の発表（担当者11）

担当者11がパワーポイントと配付資料を作成し論文を紹介する。また、受講者全員で内容について議論する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第15回：まとめ

これまでの授業全体を振り返り、先行研究の内容を踏まえ、教育課題への対応について全員で議論する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

日本心理学会編集委員会（編） 心理学研究 日本心理学会

日本教育心理学会教育心理学研究編集委員会（編） 教育心理学研究 日本教育心理学会

学生に対する評価

レポート、発表内容、議論内容から到達目標1の達成度を評価する（20%）。発表内容から、到達目標の2から5までの達成度を評価する（60%）。また、他の受講者の発表に対する発言（発言内容や積極性）から到達目標の6の達成度を評価する（20%）。

欠席した場合の取り扱い

5回以上の欠席は学修成果を得る事が困難であるため不合格とする。ただし、やむを得ない理由により欠席した場合は欠席回数に数えないこととする。

授業科目名： 教育心理学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 懸田 孝一
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>心理学の学術論文の講読、内容の発表等を通して、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。 <p>加えて、幼児、児童及び生徒の心身の発達や幼児、児童及び生徒の学習に関わる教育課題に新たに対応するための力の獲得を目指す。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 教育課題に関連する適切な教育心理学関連の学術論文を選定する。 3. 教育心理学関連の学術論文の内容を批判的に読む。 4. 教育心理学関連の学術論文の内容を理解する。 5. 教育心理学関連の学術論文の内容をまとめる。 6. 教育心理学関連の学術論文の内容を分かりやすく発表する。 7. 教育心理学関連の学術論文の内容についてディスカッションする。 8. 先行研究を踏まえて教育課題の解決方法を考える。 <p>ことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達や幼児、児童及び生徒の学習に関わって様々な教育課題が山積している現在、まず幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できることが重要である。加えて、それらの教育課題に新たに対応する力も必要である。そのためには、関連する先行研究を概観し、問題点を整理することから研究課題を見つけ、研究目的を設定できる力を身につけることが必要となる。そのための基礎的な力として、学術論文を批判的に読み、その内容を理解し、まとめ、伝える技能がある。更に、こうして得た先行研究の知見を踏まえ教育課題の解決方法を考える。</p> <p>この授業では、心理学領域の学術論文の講読と発表等を通して、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。加えて、学術論文を批判的に読み、その内容を理解し、</p>			

まとめ、伝える技能の基礎の獲得を目指す。解決すべき教育課題を設定した上で、関連する教育心理学領域の学術論文を講読し、その内容を発表し、受講者全員で知識を共有した上で内容についてディスカッションする。設定する教育課題と関連する学術論文は受講者自身が選び、内容の妥当性を担当教員と受講者全員で検討しながら決定する。また、論文の内容を、常に疑問をもちながら批判的な態度で理解しようとする習慣を身につける。最後に、教育課題の解決方法を考える。

授業計画

第1回：オリエンテーション

授業内容や進め方についての説明と次回以降の担当者を決定する。

第2回：教育課題の設定

授業で扱う教育課題を、受講者と担当教員で協議し、決定する。教育課題は、幼児、児童及び生徒の心身の発達（運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達）に関する課題、主体的学習を支える動機づけ、集団づくり、学習評価に関する課題、主体的な学習活動を支える指導に関する課題から考える。

第3回：学術論文の選定（その1）

設定した教育課題に関連する学術論文を選定する。論文の選定については、内容の妥当性に加えてや難易度の妥当性が適切であることも考慮し、受講者の興味・関心にできるだけ合うように決めることとする。この時間では受講者が選んできた論文の適切さを確認し、必要に応じて再度選定するように指示をする。適切な論文の選定は重要であり時間を要するため、2回に分けて行うこととする。

第4回：学術論文の選定（その2）

引き続き、設定した教育課題に関連する学術論文を選定する。論文の選定については、内容の妥当性に加えてや難易度の妥当性が適切であることも考慮し、受講者の興味・関心にできるだけ合うように決めることとする。この時間では受講者が選んできた論文の適切さを確認し、必要に応じて再度選定するように指示をする。

第5回：発表する論文の決定

受講者が発表する論文を決定する。また、論文を受講者全員に事前に配付し読んでおくこととする。

第6回：運動発達に関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者1）

担当者1が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第7回：言語発達に関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者2）

担当者2が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第8回：認知発達に関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者3）

担当者3が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分

かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第9回：社会性の発達に関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者4）

担当者4が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第10回：動機づけに関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者5）

担当者5が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第11回：集団づくりに関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者6）

担当者6が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第12回：学習評価に関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者7）

担当者7が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第13回：主体的学習を支える指導に関する教育課題を扱った学術論文の紹介と議論（担当者9）

担当者9が学術論文を紹介する。担当者はパワーポイントと配付資料を作成し発表する。発表者は分かりやすい発表を心がけ、その他の受講者はただ聞いているだけではなく、常に疑問をもちながら聞き、積極的に発言することとする。

第14回：教育課題への対応を考える（その1）

発達に関する教育課題について前回までに発表された論文やディスカッションの内容から、受講者が考えた教育課題への対応を発表する。そして、それについて受講者全員で議論し検討する。

第15回：教育課題への対応を考える（その2）

学習に関する教育課題について前回までに発表された論文やディスカッションの内容から、受講者が考えた教育課題への対応を発表する。そして、それについて受講者全員で議論し検討する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

日本心理学会編集委員会（編） 心理学研究 日本心理学会

日本教育心理学会教育心理学研究編集委員会（編） 教育心理学研究 日本教育心理学会

学生に対する評価

レポート、発表内容、議論内容から到達目標 1 の達成度を評価する (10%)。発表前の学術論文の選定が適切かを評価する (到達目標 2、10%) 発表内容から、到達目標の 3 から 6 までの達成度を評価する (40%)。また、他の受講者の発表に対する発言 (発言内容や積極性) から到達目標の 7 の達成度を評価する (20%)。教育課題への対応について自身の考えを発表し議論することから、到達目標 8 の達成度を評価する (20%)。

欠席した場合の取り扱い

5 回以上の欠席は学修成果を得る事が困難であるため不合格とする。ただし、やむを得ない理由により欠席した場合は欠席回数に数えないこととする。

授業科目名： 発達心理学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端 美穂 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【本授業のテーマ】</p> <p>子どもが発達するとはどういうことだろうか。「発達」を定義するときは、「学習」と区別するために、単に特定の（知的）作業がなんらかの限定された経験（学習経験）によって「できるようになる」ことを指しているのではないことが強調される。要するに、「発達」とは、ある年齢に達すると、一連の知的作業が、とりたてて「学習する」とか「教示される」ことがないのに、おのずから「できるようになっている」ような事態を指すのである。どうして、ある年齢に達すると、一連の知的作業が「できるようになっている」のかについては、いくつかの異なる発達理論のもとで様々な説明がなされている。本授業では、これまでの発達理論の有効性と限界、及び今後の展開可能性について議論する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近年の発達理論の展開、そこに見られる発達観の変化を読み取る 2 発達の問題そのものの捉え方や解決策の探索の方向にも多様な観点が成り立つことを理解する。 3 受講者自身の研究関心に対して、どのようなアプローチを採用して何を問題とすべきなのかについて、複数の観点から検討する。 			
授業の概要			
<p>これまで主流であった、また近年注目されつつある発達理論が、子どもを発達の姿をどのようにとらえ、発達の源泉を何に求め、そこでの発達観が「教育」全体（「教えること」・「学ぶこと」・「育つこと」の全体）にどのようなパースペクティブをもちうるのか、示しうるのかについて議論する。さらに、その議論を通して、複数の発達理論の観点から探索的に受講者自身の関心にアプローチして、研究の「問い」を立てる。</p>			
授業計画			
<p>前半は、主要な発達理論の系譜を追い、理論の内容とそこに読み取れる問題意識を整理し、後半は受講者が自身の課題に対してどのような方法を採用して何を問題とすべきなのかについて考える。</p> <p>第1回： ガイダンス 子どもが発達するということ－発達理論の系譜</p> <p>第2回： 精神分析学</p> <p>第3回： 現象学</p> <p>第4回： 神経心理学</p>			

第5回： 学習理論、経験主義論

第6回： 個人的構成主義論

第7回： 社会的構成主義論

第8回： 状況論、関係論

第9回： 乳児期の発達に関連した論文の講読・発表

第10回： 幼児期の発達に関連した論文の講読・発表

第11回： 児童期の発達に関連した論文の講読・発表

第12回： 思春期の発達に関連した論文の講読・発表

第13回： 青年期の発達に関連した論文の講読・発表

第14回： 成年期以降の発達に関連した論文の講読・発表

第15回： 研究構想発表

定期試験は行わない。

テキスト 使用しない。

参考書・参考資料等

浜田寿美男・岩田純一・無籐隆・松沢哲郎（編）『発達論の現在（別冊発達（10）』ミネルヴァ書房、1990年

バーバラ・ロゴフ（著）當眞千賀子（訳）『文化的営みとしての発達—個人、世代、コミュニティ』新曜社、2006年

自己調整学習研究会 『自己調整学習—理論と実践の新たな展開へ—』北大路書房、2012年

村井潤一（編）『発達論の理論をきずく（別冊発達（4）』ミネルヴァ書房、1986年

佐伯胖（編）『共感—育ち合う保育のなかで—』ミネルヴァ書房、2007年

佐伯胖（監）・渡部 信一（編）『「学び」の認知科学事典』大修館書店、2010年

Tomasello, M. (1999). The cultural origins of human communication. Cambridge, MA: Harvard University Press. 大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本多啓（訳）『心とことばの起源を探る—文化と認知』勁草書房、2006年

Vasudevi, R. (2008). How infants know minds. MA: Harvard University Press. 佐伯胖（訳）『驚くべき乳幼児の心の世界—「二人称アプローチから見えてくること—』ミネルヴァ書房、2015年

学生に対する評価

①担当する理論及び論文に関する報告：研究論文の理解度、報告の明瞭さ・伝える工夫、レジユメのわかりやすさ、②毎回の討議内容：授業への貢献度（発言とその内容、聞く姿勢）、③期末レポート：到達目標3項目のそれぞれの達成が明確に表現されているか、により評価する。

①：②：③のウエイトは、50：25：25とする。

授業科目名： 発達心理学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端 美穂 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
【授業のテーマ】			
近い将来の教職実践を見据えて、人間の発達に関連する関心の中から、追求すべき「問い」を立て、必要な資料や文献を収集・分析・活用しながら、「問い」に迫るための基本的な技能を習得する。			
【到達目標】			
1. 自らの問題意識に関連する先行研究をレビューする。			
2. 先行研究の意義と残された課題を明らかにする。			
3. 自らの研究課題を設定する。			
4. データの収集及び分析の方法を検討する。			
授業の概要			
発達研究の方法論を身につけるための基礎として、主として発達心理学、教育心理学、保育学領域の研究論文を読んで理解するためのトレーニングを行う。論文を読むことを通して、論理の構造、実証的な方法論、様々なデータの種類の種類、研究計画の方法、分析方法等について学ぶ。			
授業計画			
前半は、発達に関連する問題をテーマとしながら、研究手法の異なる7つの研究論文を講読し、問いの立て方・データ収集法・結果の導き方などについて考察する。後半は、各自の関心のある研究、関心のあるアプローチを取っている研究を他の受講者に紹介して、ゼミ形式で議論する。			
第1回： ガイダンス 子どもを「人間としてみる」ということ			
第2回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅰ（実験）			
第3回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅱ（質問紙調査）			
第4回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅲ（エスノグラフィー）			
第5回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅳ（インタビュー）			
第6回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅴ（教育実践）			
第7回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅵ（社会統計データ）			
第8回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅶ（評論）			
第9回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅰ			
第10回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅱ（発達心理学研究）			

第11回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅲ（保育学研究）
 第12回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅳ（質的心理学研究）
 第13回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅴ（教育心理学研究）
 第14回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅵ（教育学研究）
 第15回： 研究構想発表
 定期試験は行わない。

テキスト
 使用しない。

参考書・参考資料等

刑部育子「『ちょっと気になる子ども』の集団への参加過程に関する関係論的分析」発達心理学研究、第9巻第1号、1-11頁、1998年

荻谷剛彦・志水宏吉 編『学力の社会学』岩波書店、2004年

木村泰子『「みんなの学校」が教えてくれたこと：学び合いと育ち合いを見届けた3290日』小学館、2015年

岡本依子「母親と子どものやりとり」、やまだようこ他編『カタログ 現場心理学—表現の冒険』金子書房、12-19頁、2001年

Onishi, K.H., & Baillargeon, R. 2005 Do 15-month-old infants understand false beliefs? Science, 308, 255-258.

氏家達夫・高濱裕子 「3人の母親：その適応過程についての追跡的研究」発達心理学研究、第5巻第2号、123-136頁、1994年

結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか—集団教育のエスノグラフィー』有信堂、1998年

学生に対する評価

報告の内容（文献を正確に理解し、報告できたか）：40%、討論への参加状況（授業に貢献する意見や質問、聞く姿勢）：20%、研究計画：40%によって評価する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：萩原拓、片桐正敏、蔦森英史 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業では、①特別の支援を必要とする幼児、児童、及び生徒の障害の特性、心身の発達、②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法、および、③診断はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応の3点について理解し、以下の知識・技能を獲得することを到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮やインクルーシブ教育をはじめとする特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付け、教育場面での臨床像例を挙げることができる。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解し、その方法例について知識を獲得している。 ・日本語以外の母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>教員として、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等、または診断に至らない困難さにより、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくための教育を実践することができるように、学習上及び生活上の困難を特定、理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学ぶ。</p> <p>障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の学習上の困難とその対応については、第10回で虐待や貧困、性別違和の特性と対応を扱うほか、その子どもが持つ社会性や感覚特性の理解が支援の際に重要であり、環境調整が具体的な支援の鍵になることから、12回以降で扱うものとする。</p>			

授業計画

第1回：特別支援教育の導入の意味、「障害」概念の旧来の捉え方、「障害」概念の新しい捉え方

(担当：蔦森)

第2回：特別支援教育の歴史 (担当：蔦森)

第3回：障害の有無に関わらない特別の支援を要する幼児、児童、生徒と各学校園が抱える諸問題

(担当：蔦森)

第4回：個別の指導計画、教育支援計画 (担当：蔦森)

第5回：障害者権利条約批准とインクルーシブ教育 (担当：蔦森)

第6回：発達障害の定義と心理、発達特性 (担当：片桐)

第7回：学習障害 (限局性学習症) の心理、学習の過程と指導法 (担当：片桐)

第8回：注意欠如多動性障害 (ADHD) の心理、行動的な特徴と指導法 (担当：片桐)

第9回：自閉症スペクトラム障害 (ASD) の心理、行動的な特徴と指導法 (担当：片桐)

第10回：知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害の特性と対応、および障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒—虐待や貧困、性別違和の特性と対応 (担当：片桐)

第11回：校内支援及び関係機関との連携における現状と課題 (担当：萩原)

第12回：環境調整、学習支援 (担当：萩原)

第13回：問題行動への支援 (担当：萩原)

第14回：社会性問題への支援 (担当：萩原)

第15回：感覚特性の理解と支援 (担当：萩原)

テキスト

適宜授業資料を配布する

参考書・参考資料等

宮本信也ほか (監修) 特別支援教育の基礎 確かな支援のできる教師・保育士になるために。東京書籍。

学生に対する評価

(1)特別支援教育の基本的枠組み、(2)特別支援教育の対象の特性理解、(3)特別支援教育の対象の支援法に関する理解、の3点の観点について、3回の小試験を授業中に実施する (7割)。毎回授業のコメントについて用紙に記載を求め、それも評価の対象とする (3割)。

*病気や忌引等止むを得ない事情で欠席の場合は、担当教員の判断により課題等で代替する。

*課外活動による欠席の場合、代替処置は講じない。

授業科目名： 幼児の教育課程と教育 方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：稲井 智義 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則と幼稚園の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 4. 幼児期における「資質・能力」を育成する方法について理解し考える。 5. 幼児教育の目的に適した指導技術について理解し、身につけ、考える。 6. 情報機器を活用した保育について理解し考える。 			
授業の概要			
<p>本授業では、はじめに幼児のカリキュラム（教育課程）と教育方法に関する留意点について概説する。あわせて具体的な実践を取り上げながら、カリキュラム編成と指導計画の立案に向けての視点を養う。おわりに以上の点をふまえたカリキュラム案と指導計画案を作成する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 はじめに：カリキュラム編成の基本と幼稚園教育要領のねらいと内容</p> <p>第2回 幼稚園教育要領の社会史：公共心と探究心・好奇心の脱政治化から再政治化へ</p> <p>第3回 カリキュラムの社会的機能と留意点：再生産理論と隠れたカリキュラム</p> <p>第4回 カリキュラム編成の基本原則としての教育の公共性：ニューパブリックとアナーキズム</p> <p>第5回 領域を横断した教育内容の配置とその構想：カリキュラムの市民化</p> <p>第6回 家庭・地域・小学校・社会・福祉と連携したカリキュラム編成：「みんな」とは誰か</p> <p>第7回 教育方法の実践と理論：「環境を通して行う教育」と見えないペダゴジー</p> <p>第8回 インファンタスとしての幼児の主体性と遊び、学び：正統的周辺参加論と学びの社会性</p> <p>第9回 幼児教育を構成する人・空間・環境・教材：メディアとアーキテクチャ</p> <p>第10回 幼児理解に基づいた評価：子ども中心主義とポピュリズムから他者としての子どもへ</p> <p>第11回 ドキュメンテーションと中断のペダゴジー：レッジョ・エミリアと教えの公共性</p> <p>第12回 指導案と実践記録のつくり方と読み方：現代思想以後の教育実践</p>			

第13回 情報機器と教材を用いて幼児の表現を振り返り情報（メディア）リテラシーを育む教育
 第14回 カリキュラム・マネジメントを超えて：イノベーションとエージェンシー、インファンス
 第15回 おわりに：幼児教育の公共性を評価するラディカルな見えるペダゴジーと市民性教育
 期末レポートの執筆

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。

文部科学省『幼稚園教育要領』2017年。

参考書・参考資料等

浅木尚実編『絵本から学ぶ子どもの文化』同文書院、2015年。

小玉亮子編『幼児教育』ミネルヴァ書房、2020年。

小玉亮子編『幼小接続期の学校・園・学校』東洋館出版社、2017年。

小玉重夫『学力幻想』ちくま新書、2013年。

お茶の水女子大学附属幼稚園小学校中学校子ども発達教育研究センター『「接続期」をつくる』東洋館出版社、2008年。

木村泰子『「みんなの学校」が教えてくれたこと』小学館、2015年。

木村泰子『「みんなの学校」流・自ら学ぶ子の育て方』小学館、2016年。

佐伯胖『幼児教育への誘い』増補版、東京大学出版会、2014年。

福元真由美編『はじめての子ども教育原理』有斐閣、2017年。

さくら保育園編『それでも、さくらは咲く』かもがわ出版、2014年。

ワタリウム美術館製作『子どもたちの100の言葉：レッジョ・エミリア市の挑戦2001』ワタリウム美術館、2013年（DVD資料）。

木村涼子・小玉亮子『教育／家族をジェンダーで語れば』白澤社、2005年。

東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会編『カリキュラム・イノベーション：新しい学びの創造へ向けて』東京大学出版会、2015年。

佐藤慎司・佐伯胖編『かかわることば：参加し対話する教育・研究へのいざない』東京大学出版会、2017年。

佐伯胖『「学び」の構造』東洋館出版社、1975年。

千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書、2022年。

浜谷直人『困難を抱えた子どもの保育臨床とファンタジー』新読書社、2019年。

学生に対する評価

1. 映像・資料・授業内容に基づく個人レポート：20%
2. 絵本に関するレポート：30%

3. コメントカードの記入を通じた授業への貢献：10%

4. 期末レポート「カリキュラム編成と教育方法の留意点と視点、カリキュラム編成と指導計画」：40%

授業科目名： 教育方法学特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1. 「子ども理解」の方法と「教師—子ども」関係の独自性について理解し、自らの考えをまとめることができる。</p> <p>2. 「教えること」と「学ぶこと」の関係性について関心を持ち、「教える」という営みのもつ特質について理解し、自らまとめることができる。</p> <p>3. 授業を捉える基本的な視点について理解し、授業実践記録を分析できる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、教育方法学研究の主要領域となる授業論および生活指導論における基本的なものの見方や考え方を学習しながら、様々な教育実践の場の今日的課題について考察することをねらいとする。そのためにもまず、子どもを「見る」「理解する」という教師の行為について考察したい。ある子どもの問題現象が、その子どもの人格発達においていかなる課題や発達可能性を表しているのかを的確につかむことが、教師としての働きかけの手だてを構想する前提条件となるからである。それをふまえ、「教える」という営みの特質や授業づくりの理論と方法を捉える各論に移る。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション— 教育方法学の「知」の独自性とこの授業のテーマについて			
各論1 「子ども理解」について考える			
第2回：子どもを「見る」ということ①— 子どもの問題行動のなかに発達要求を読みとる			
第3回：子どもを「見る」ということ②— 外側から評価することと、内側から理解すること			
第4回：子ども理解と教師の「アンラーン」			
各論2 「教える」という営みについて考える			
第5回：「教える」ことの3つのモデル—「教えること」と「学ぶこと」との関係性をめぐる 問題史①（「工場モデル」の意義と課題）			
第6回：「教える」ことの3つのモデル—「教えること」と「学ぶこと」との関係性をめぐる 問題史②（「農場モデル」の意義と課題）			
第7回：「教える」ことの3つのモデル—「教えること」と「学ぶこと」との関係性をめぐる 問題史③（「劇場モデル」の意義と課題）			

第8回：教師が「問いかける」ということ―「発問」のはたらきと役割を考える

第9回：「教師―子ども」関係と「教育的指導」の特質

各論3 「授業づくり」について考える

第10回：授業づくりと学級づくり― 教室を「まちがう」場所にする

第11回：学力保障と授業づくり―「わかる」授業の成立を求めて

第12回：授業と学習集団―「みんなでわかる」ことの意味を探究する

第13回：授業実践記録の分析①（ワークショップ形式での、グループによる分析）

第14回：授業実践記録の分析②（グループごとの分析結果の発表と、全体討論）

第15回：生活指導・学級づくりの実践記録の分析

テキスト

各テーマにもとづき、その都度資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・ 吉本均『授業成立入門』明治図書、1985年。
- ・ 吉本均『続授業成立入門』明治図書、1988年。
- ・ 小学校学習指導要領（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領（最新版）
- ・ 小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

資料および教育実践記録の分析・報告とそれらをもとにした討論への参加（40%）、さらにはまとめのレポート（60%）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 教育方法学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1. テキストを主題に即して的確に分析し、授業・教育実践を捉えるための「原理的」なものの見方・考え方について理解を深め、自らまとめることができる。</p> <p>2. 授業と学習集団、教育の方法と技術、生活指導と学級集団づくりの今日的な課題について理解を深め、自らの問題意識をまとめることができる。</p> <p>3. グループ作業やグループ討論を通して、意欲的に課題追究することができる。</p>			
授業の概要			
<p>教育方法学研究は、教育の現実が抱える課題を「説明」する科学ではなく、教育の現実とは無関係に教育理念を「思弁」する科学でもない。それは「原理的」なものとは「実践的」なものとの複眼的な思考の中で、教育の現実が抱える課題をつかみ、その解決の糸口を探り出す「実践科学」であるといえる。演習 I では、実践科学としての教育方法学の特質に迫るために、教授学の知、授業と学習集団、生活指導と学級集団づくりに関する文献を検討することを通して、教育実践を構想するための「原理」を探求することを主たるねらいとする。教育実践を構想するための「原理的」なものの見方は、教育実践の事実がより深く「見える」ようになるための装置となり、かつその「原理」に自覚的であることで教育実践をつくり出す手だてともなる。本演習は、関連する文献の分析を通して、学級づくりや授業づくりを構想していくための「原理」を立ちあげていく場としたい。</p> <p>また、教育実践が抱える課題に迫る問題設定の方法と、問題解決のための資料収集の視点及び方法を学び、教育方法学における理論的・実践的課題について考察を深める。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教育方法学は理論と実践との関係をどのように捉えてきたか			
第2回：教授学の知を学ぶー『現代教授学の課題と授業研究』を読み解く①（子ども理解をめぐって）			
第3回：教授学の知を学ぶー『現代教授学の課題と授業研究』を読み解く②（教師と子どもの関係性と教育的指導をめぐって）			
第4回：教授学の知を学ぶー『現代教授学の課題と授業研究』を読み解く③（授業の構想と展開をめぐって）			

- 第5回：授業と学習集団の理論を学ぶー『学習集団研究の現在』を読み解く①（授業づくりの今日的課題と学習集団研究をめぐって）
- 第6回：授業と学習集団の理論を学ぶー『学習集団研究の現在』を読み解く②（学習集団の指導技術をめぐって）
- 第7回：授業と学習集団の理論を学ぶー『学習集団研究の現在』を読み解く③（学習集団研究と子どもの授業参加をめぐって）
- 第8回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く①（生活指導の原理について）
- 第9回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く②（子どもの権利と生活指導について）
- 第10回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く③（子どもの生活世界と子ども理解をめぐって）
- 第11回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く④（学級集団づくりの思想と方法をめぐって）
- 第12回：グループ別課題研究に向けたテーマ設定
- 第13回：グループ別課題研究の調査発表①（Aグループの発表）
- 第14回：グループ別課題研究の調査発表②（Bグループの発表）
- 第15回：グループ別課題研究の調査発表③（Cグループの発表）
- ※1グループ2～3名で実施する。

テキスト

- ・白石陽一、湯浅恭正『現代教授学の課題と授業研究』明治図書、2006年。
- ・深澤広明、吉田成章編『学習集団研究の現在』（vol.1～）溪水社。
- ・山本敏郎『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014年。

参考書・参考資料等

- ・授業の中で随時紹介する。
- ・小学校学習指導要領（最新版）
- ・中学校学習指導要領（最新版）
- ・高等学校学習指導要領（最新版）
- ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・幼稚園教育要領（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・幼稚園教育要領解説（最新版）

・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

テキストの分析報告及びそれらをもとにしたディスカッションへの参加・まとめの作成（70％）、さらには、最終レポート（30％）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 教育方法学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師による教育実践のふり返りや授業研究の意義およびその方法について理解している。 2. 授業・教育実践を具体的に分析する過程を通して、授業・教育実践の特質やそれらを捉える視点について理解を深め、自らまとめることができる。 3. 教育実践、授業実践をめぐる今日的な課題について、自らの問題意識を深めて研究テーマを設定し、研究に有効な先行研究を収集・分析することができる。 4. 研究に有効な先行研究の分析を通して、研究課題の設定をおこなうことができる。 			
授業の概要			
<p>教育実習での経験を踏まえ、学習指導や生活指導をめぐる教育実践記録の作成とその分析、授業記録の分析をおこなうことを通して、教育実践を省察することの意義およびその方法について理解するとともに、教育実践を分析する視点について理解を深める。さらに、学習指導や生活指導をめぐる今日的な課題について関心を持ち、関連する先行研究を検討することを通して、授業・教育実践が抱える課題に迫る問題設定の方法について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教師が授業・教育実践を省察することの意義			
第2回：教育実践記録作成ワークショップ①（教育実践記録の作成）			
第3回：教育実践記録作成ワークショップ②（教育実践記録の分析）（Aグループの発表・検討）			
第4回：教育実践記録作成ワークショップ③（教育実践記録の分析）（Bグループの発表・検討）			
第5回：授業分析演習①（分析レポートの発表と討論）（Aグループの発表・検討）			
第6回：授業分析演習②（分析レポートの発表と討論）（Bグループの発表・検討）			
第7回：授業分析演習③（分析レポートの発表と討論）（Cグループの発表・検討）			
第8回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討①（第1回 Aグループの発表・検討）			
第9回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討②（第1回 Bグループの発表・検討）			
第10回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討③（第1回 Cグループの発表・検討）			
第11回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討④（第2回 Aグループの発表・検討）			
第12回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討⑤（第2回 Bグループの発表・検討）			
第13回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討⑥（第2回 Cグループの発表・検討）			
第14回：研究課題の設定と研究計画の構想①（A・Bグループの発表・検討）			

第15回：研究課題の設定と研究計画の構想②（B・Cグループの発表・検討）

※1グループ2名で実施する。

定期試験は行わない。

テキスト

課題研究のテーマに即した先行研究を各自で収集する。また、受講者の問題関心に応じて授業の中で随時紹介する。

参考書・参考資料等

- ・ 浅野誠『学校を変える 学級を変える』青木書店、1996年。
- ・ 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。
- ・ 日本教育方法学会編『教育方法』（図書文化）
- ・ 小学校学習指導要領（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領（最新版）
- ・ 小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

実践記録の作成とそれにもとづく討論への参加（20%）、授業分析のレポートと討論への参加（20%）、課題研究の報告およびそれらをもとにした討論への参加（30%）、さらには最終レポート（30%）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 教育方法学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業・教育実践の研究方法論について理解を深め、自らの研究に活かすことができる。 2. 課題解決のために求められる資料・データを収集し、分析することができる。 3. 資料・データを分析して得られた知見を総合し、研究課題に対する自らの考えをまとめることができる。 			
授業の概要			
<p>教育方法学演習Ⅱで設定した研究課題を解決するための資料・データ収集の視点及び方法を学び、収集した資料・データを実際に分析することを通して、授業・教育実践を分析する理論と方法や授業・教育実践を構想する方法について理解を深める。</p>			
授業計画			
第1回：授業・教育実践研究の研究方法論の探究①—授業研究の歴史と方法をめぐって			
第2回：授業・教育実践研究の研究方法論の探究②—授業・教育実践の臨床的な研究方法をめぐって			
第3回：研究課題を解決するための研究構想の立案①（A・Bグループの発表・検討）			
第4回：研究課題を解決するための研究構想の立案②（B・Cグループの発表・検討）			
第5回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析①（第1回 Aグループの発表・検討）			
第6回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析②（第1回 Bグループの発表・検討）			
第7回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析③（第1回 Cグループの発表・検討）			
第8回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析④（第2回 Aグループの発表・検討）			
第9回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑤（第2回 Bグループの発表・検討）			
第10回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑥（第2回 Cグループの発表・検討）			
第11回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑦（第3回 Aグループの発表・検討）			

第12回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑧（第3回 Bグループの発表・検討）

第13回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑨（第3回 Cグループの発表・検討）

第14回：研究成果をまとめるための論文構成の検討①（A・Bグループの発表・検討）

第15回：研究成果をまとめるための論文構成の検討②（B・Cグループの発表・検討）

※1グループ2名で実施する。

定期試験は行わない。

テキスト

研究課題を解決するために必要な資料や授業記録・実践記録を各自で収集する。また、研究課題に応じてフィールドワークをおこないデータを収集する。

参考書・参考資料等

- ・佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。
- ・日本教育方法学会編『日本の授業研究－Lesson Study in Japan－（上・下巻）』学文社、2009年
- ・受講者の問題関心に依じて授業の中で随時紹介する。
- ・小学校学習指導要領（最新版）
- ・中学校学習指導要領（最新版）
- ・高等学校学習指導要領（最新版）
- ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・幼稚園教育要領（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

収集した資料・データの分析レポート及びそれらをもとにした討論への参加（70%）、さらには研究成果をまとめるレポート（30%）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 心理学研究法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮崎 拓弥 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 記述統計についての基本的事項を説明することができる。 2 表計算ソフトを用いてデータを効果的に表現することができる。 3 心理・教育に関わる身近な統計的事例について、批判的な検討を加えることができる。 			
授業の概要			
<p>心理・教育に関するさまざまな現象について実証的に検討するためには、データを収集し、それに対して統計的処理を施すことが必要となる。本講義では、心理・教育に関わるデータを表現し、要約する記述統計について主に解説するとともに、表計算ソフトを利用した効果的な作図方法等についても説明する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：統計法と測定値の取り扱い1 統計法の考え方			
第3回：統計法と測定値の取り扱い1 変数と尺度水準			
第4回：度数分布と統計図表1 量的変数			
第5回：度数分布と統計図表2 質的変数			
第6回：中心傾向の測度1 様々な測度			
第7回：中心傾向の測度2 その計算			
第8回：得点の散布度1 その計算			
第9回：得点の散布度2 その図表化			
第10回：正規分布と相対的位置の測度1 正規分布			
第11回：正規分布と相対的位置の測度2 z値への変換			
第12回：正規分布と相対的位置の測度3 パーセンタイル点・順位			
第13回：直線相関と直線回帰1 相関係数			
第14回：直線相関と直線回帰2 線形回帰			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
心理・教育のための統計法 第3版 山内光哉著 サイエンス社			

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領（最新版）
 - ・中学校学習指導要領（最新版）
 - ・高等学校学習指導要領（最新版）
 - ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
 - ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
 - ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
 - ・幼稚園教育要領（最新版）
 - ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
 - ・幼稚園教育要領解説（最新版）
 - ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
- 講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業時に課される小レポート（20％），試験（80％）

授業科目名： 心理学研究法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮崎 拓弥 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 推測統計についての基本的事項を説明することができる。 2 統計処理ソフトを用い、t検定や分散分析を実行することができる。 3 t検定や分散分析の結果を適切に解釈することができる。 4 周囲の出来事に潜んでいる統計的側面に関心を持ち、批判的な検討を加えることができる。 			
授業の概要			
<p>心理・教育に関するさまざまな現象について実証的に検討するためには、データを収集し、それに対して統計的処理を施すことが必要となる。本講義では、それらの研究を行う上で求められる統計学の理論と方法、およびその基礎となる考え方を理解するとともに、コンピュータを用いたデータ処理のスキルの習得を目的とする。本講義では、t検定や分散分析などの推測統計について主に解説するとともに、それらを実行するための統計処理ソフトの操作方法についても説明する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：母集団と標本1 母集団			
第3回：母集団と標本2 標本			
第4回：統計的仮説検定			
第5回：区間推定			
第6回：t検定 その考え方			
第7回：t検定 その計算の仕方と結果の見方			
第8回：1要因分散分析1 その考え方			
第9回：1要因分散分析2 その計算の仕方と結果の見方			
第10回：2要因分散分析1 その考え方			
第11回：2要因分散分析2 その計算の仕方と結果の見方			
第12回：2要因分散分析3 その結果の記述の仕方			
第13回：交互作用1 その考え方			
第14回：交互作用2 その結果の記述の仕方			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト

心理・教育のための統計法 第3版 山内光哉著 サイエンス社

参考書・参考資料等

- ・ 小学校学習指導要領（最新版）
 - ・ 中学校学習指導要領（最新版）
 - ・ 高等学校学習指導要領（最新版）
 - ・ 小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
 - ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
 - ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
 - ・ 幼稚園教育要領（最新版）
 - ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
 - ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
 - ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
- 講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業時に課される小レポート（20%），試験（80%）

授業科目名： 情報教育実践論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 正範 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場において視聴覚機器やコンピュータ等が導入された経緯やプロセスを理解する。 ・学校現場においてICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。 ・授業におけるICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、指導計画を立案できる。 			
授業の概要			
<p>これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践を学ぶとともに、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。</p>			
授業計画			
<p>第1回： Society5.0 及び AI 時代の社会と教育 第2回： 学校における ICT 活用と政策の変遷 第3回： 学校における ICT 活用の事例検討と共有 第4回： ICT を活用した授業づくり 第5回： ICT を活用した指導計画の立案①（児童生徒の把握と単元指導計画作成等） 第6回： ICT を活用した指導計画の立案②（指導案づくり等） 第7回： 指導計画の発表・模擬授業等 第8回： 情報化社会に生きる子どもと直面する課題 第9回： 情報モラル指導とデジタルシティズンシップの育成 第10回： 情報活用能力を育む指導計画の立案①（児童生徒の把握と単元指導計画作成等） 第11回： 情報活用能力を育む指導計画の立案②（指導案づくり等） 第12回： 指導計画の発表・模擬授業等 第13回： EdTech（VR・ウェアラブルカメラ等）を活用した授業構想①（事例検討） 第14回： EdTech（VR・ウェアラブルカメラ等）を活用した授業構想②（指導案づくり等） 第15回： まとめと振り返り</p>			
テキスト			
授業中に適宜紹介する			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス ・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社 ・小学校学習指導要領（最新版） ・中学校学習指導要領（最新版） ・高等学校学習指導要領（最新版） ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版） 			

- ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

授業における課題とリフレクションノート、指導計画を点数化して行う。

指導計画・発表（50%）、授業内外の課題（40%）、リフレクションノート（10%）

授業科目名：次世代型 学習デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 正範 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・OECDによるEducation2030プロジェクトを始め、近年の学力論について理解するとともに、次世代の教育について構想することができる。 ・STEAM教育やプログラミング教育、学習ログの利活用など、次世代の教育で鍵となる教育方法を理解し、説明することができる。 ・授業におけるICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、指導計画を立案できる。 			
授業の概要			
OECDによるEducation2030プロジェクトを始め、近年世界的に進んでいる学力論をふまえ、次世代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT活用や情報活用能力の育成、STEAM教育、プログラミング教育、学習ログの利活用に関する先進実践を学ぶとともに、それらの授業を行う指導計画をデザインする。			
授業計画			
第1回： 学校における学び これまでとこれから 第2回： 2030年の学びを構想する 第3回： 情報活用能力を育む授業デザイン①（情報学的視点から） 第4回： 情報活用能力を育む授業デザイン②（コンピュータサイエンス的視点から） 第5回： 情報活用能力を育む授業デザイン③（カリキュラムマネジメント的視点から） 第6回： STEAM教育に焦点をあてた授業デザイン①（STEAM教育を捉える） 第7回： STEAM教育に焦点をあてた授業デザイン②（STEAM教育の現在とこれから） 第8回： STEAM教育に焦点をあてた授業デザイン③（STEAM教育で授業をつくる） 第9回： プログラミング教育実践①（プログラミング教育を捉える） 第10回： プログラミング教育実践②（実践例を検討する） 第11回： プログラミング教育実践③（プログラミングの活動をつくる） 第12回： 授業における学習ログの蓄積と利活用①（学習ログの可能性を捉える） 第13回： 授業における学習ログの蓄積と利活用②（学習ログの活用例を検討する） 第14回： 授業における学習ログの蓄積と利活用③（学習ログを利用した授業づくり） 第15回： まとめと振り返り			
テキスト			
授業中に適宜紹介する			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・白井俊（2020）OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来，ミネルヴァ書房 ・堀田龍也・山内祐平（2021）クラウドで育てる次世代型情報活用能力，小学館 			

- ・小学校学習指導要領（最新版）
- ・中学校学習指導要領（最新版）
- ・高等学校学習指導要領（最新版）
- ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・幼稚園教育要領（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

授業における課題とリフレクションノート等を点数化して行う。

指導計画・発表（50%）、授業内外の課題（40%）、リフレクションノート（10%）

授業科目名：幼児理解と教育相談	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：稲井 智義、川端 美穂 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育現場における幼児理解と教育相談の重要性と課題を理解している。 2. 幼児の不適応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 3. 幼児期の子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼児理解の方法と実践、幼児にかかわる教育相談・援助のあり方について、講義および事例研究を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の発達の特徴を踏まえながら、カウンセラーとは異なる教師の行う教育相談の方法の基礎にある理論を学ぶ。 2. 幼児期の子どもとその家庭に関する臨床的問題の実際、及び現代の教育現場における諸問題について学ぶ。 3. 様々な困難を抱える子ども・多様な保護者とのつながり方の原則と、内外の資源と連携しながら支援するための方法について学ぶ。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回～第7回を稲井が、第8回～第15回を川端が担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育における子ども理解1：子ども理解の原則、発達の視点、生態学的視点（担当：稲井） 2. 幼児教育における子ども理解2：問題行動・症状の意味（担当：稲井） 3. 子ども理解のための教師の「構え」（担当：稲井） 4. 子ども理解のための観察・記録・省察・評価（担当：稲井） 5. 集団における経験と育ち：子どもを取り巻く人的環境、集団の教育力（担当：稲井） 6. 発達における葛藤やつまづき（課題、テーマ、訴え）（担当：稲井） 7. 子ども理解のための家庭との情報共有（担当：稲井） 8. 幼児教育における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念（担当：川端） 9. 特別な配慮を必要とする幼児の理解と援助：発達障害に関する基礎知識（担当：川端） 			

<p>10. 特別な配慮とカウンセリングマインド (担当：川端)</p> <p>11. カウンセリングの基礎的態度、技法 (担当：川端)</p> <p>12. 園内の連携、保護者への支援、教育相談の進め方 (担当：川端)</p> <p>13. 「発達段階」や「発達課題」のとらえ方 (担当：川端)</p> <p>14. 個別の指導計画、保育カンファレンスなど園内体制の整備 (担当：川端)</p> <p>15. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携 (担当：川端)</p> <p>まとめ：共感と教育的働きかけの実践的統合 (担当：川端、稲井)</p>
<p>テキスト</p> <p>佐伯胖『幼児教育へのいざない—円熟した保育者になるために—』増補改訂版、東京大学出版会、2014年。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>藪中征代・玉瀬友美編『子どもの理解と援助—子どもの育ちと学びの理解と保育実践—』萌文書林、2020年。</p> <p>本田和子『異文化としての子ども』ちくま学芸文庫、1992年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>1. 教育学的アプローチの各回 (稲井担当) へのコメント提出および課題遂行</p> <p>2. 発達心理学的アプローチの各回 (川端担当) へのコメント提出および課題遂行</p> <p>1と2それぞれについての評価を総合する。いずれかがF評価の場合、総合評価はFとする。</p>

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中・高)	単位数：2単位	担当教員名：黒谷 和志			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	15人				
教員の連携・協力体制 <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画についてはカリキュラム委員会が調整の上策定する。 ・担当教員を中心に、教科専門科目を担当する他専攻の教員などと共同し企画運営を行う。 ・受講生のテーマに関わる内容については、研究室指導教員を中心に、担当教員、その他の教員がこれを支援する。 ・実務的な内容や、教育現場に直結するような内容については、各種機関・学校関係者（附属・スーパーバイザー・実地講師・その他）等の協力のもと、受講生に直接指導を行う。 					
授業のテーマ及び到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師としての職責や教職の特殊性を理解するとともに、自ら向上を重ねることができる 2. 他の教職員や保護者、地域の関係者等と連携・協力して教育活動を行うことができる 3. 生徒指導に関わる基礎的な知識・技能を身につけるとともに、子ども理解や指導の場で活用することができる 4. 学習指導に関わる基礎的な知識・技能を身につけ、実際の場面で用いることができる 5. ICT活用指導力に必要な知識技能を身に付ける 					
授業の概要 <p>まず、これまでの教職課程の履修や教育実習を電子ポートフォリオを活用して全般的に振り返り、教員として求められる次の5つの観点について、各自の達成度や課題を明確にし、不足している点を明らかにする。ついで、専攻が提供するプログラムに参加し不足していた知識や技能を補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教科・保育内容等の指導力に関する事柄 ② 幼児・児童・生徒理解や学級経営に関する事項 ③ 社会性や対人関係能力に関する事項 ④ 教職に関する使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ⑤ ICT活用指導力に関する事項 					
授業計画 <p>第1回 ガイダンス—教職実践演習の趣旨の理解（2時間）</p> <p>第2回 学びの履歴の整理とその分析（2時間）</p> <p>第3回 学びの履歴の整理・分析を踏まえた本授業での課題と活動計画の設定（2時間）</p> <p>第4～8回 ボランティア活動、フィールド研究、調査研究等、各自の課題を踏まえた活動の実施とタブレット等のICTを積極的に活用した記録の作成（10時間）</p> <p>第9回 子どもの理解と支援をめぐる今日的課題① —児童虐待、子どもの心のケアをめぐる（実地指導講師との対話）（2時間）</p> <p>第10回 子どもの理解と支援をめぐる今日的課題② —放課後の世界から見えてくる子どもの生活（実地指導講師との対話）（2時間）</p>					

<p>第11回 「チームとしての学校」について考える ー学校の危機管理対応と養護教諭との連携（実地指導講師との対話）（2時間）</p> <p>第12回 学校における多職種連携について考える ー地域の中の子どもと放課後児童支援員との連携（実地指導講師との対話）（2時間）</p> <p>第13回 ボランティア活動、フィールド研究、調査研究等、各自の課題を踏まえた活動の記録に基づくタブレット等のICTを積極的に活用したレポート作成（学生指導教員による指導）（2時間）</p> <p>第14～15回 ボランティア活動、フィールド研究、調査研究等、各自の課題を踏まえた活動について、タブレット等のICTを積極的に活用した発表・討論（4時間）</p> <p>※調査研究、レポートの作成や発表の際には、ICT機器等を積極的に活用すること。</p>
<p>テキスト</p> <p>特に設定しない。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領（最新版） ・中学校学習指導要領（最新版） ・高等学校学習指導要領（最新版） ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版） ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版） ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版） ・幼稚園教育要領（最新版） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版） ・幼稚園教育要領解説（最新版） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
<p>学生に対する評価</p> <p>講義中に作成するレポートをもとに、4つの観点に関わる活動計画の達成度を総合的に評価する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。